

ビジュアル・サービス株式会社

広告企画・デザイン・制作

〒760-0065 香川県高松市朝日町2丁目14番7号
TEL:087-816-0021
HP: http://www.ad-vs.co.jp

高松市を拠点に屋外のデザインをはじめ、パンフレットや映像制作、WEBデザインなどさまざまな広告媒体の企画、デザイン、制作を手がけています。



販売管理システムのトップ画面

「あの取引先、外注や予算の詳細は？ 採算は…」の調べ物から脱却

経営状況が見えづらい
アナログ販売管理

ビジュアル・サービスでは、屋内外の大型広告をはじめ、紙媒体やWEBデザインなどお客さまの目的や要望に合わせて、多種多様な企画、デザイン、制作を手がけています。同社では数年前まで、制作物の代金回収を記録する売掛台帳を手書きで管理。そのため、制作物ごとの売上や利益率、各従業員の正確な営業数字が把握しづらいことが課題でした。「台帳は顧客の数だけページがある上、制作物の項目が多く分厚かったですね。なので、お客さまの取引履歴を調べるのも一苦労。台帳を一枚一枚めくって探す必要があり、欲しい情報がすぐに引き出せず、ジレンマを感じていました。さらに、代金の未収金を見落とすこともしばしば。直接お金が関わることなので、お客さまへの連絡が遅くなればなるほどロスや信用問題につながる恐れがありました。加えて、経理担当の負担が大きく、作業時間不足に長年悩ま

販売管理システムの導入で
迅速なデータ参照が可能に

されている状況だったことから販売管理をアナログからデジタルへと移行することを決めました」と上枝代表取締役。

導入したのは、受注、発注、売上、仕入などの伝票入力、売掛や買掛の台帳管理などがパソコンでできる販売管理システム。ボタン一つで指定した範囲の制作物ごとの売上や利益率などがスピーディーに参照可能に。正確な経営状況の詳細が把握できるようになりました。さらに、各従業員の得意分野が見えるようになったことで、その人にあった仕事を振り分けられるようになりました。「当社の強みは、多分野にわたるものづくりができることです。今後は、どの分野も満遍なく受注しつつ、社会のトレンドに合わせた最先端のデジタル分野やリアルバイバルにもどんどん挑戦していきたいと考えています」と上枝代表取締役は思いを語ってくれました。

あの企業は
こう使っている！

事例に学ぶ ———T———導入

図解！ IT導入ビフォー&アフター

Before

売掛台帳 封筒 請求書
すべて手書き+アナログ資料での確認



慢性的な時間不足によるミスやロスが発生

多岐に渡る商品 看板、チラシ、パンフレット、名刺、車両ラッピング、展示会...etc



誰がどれくらい売上げている?
利益率が高いのはどの部門なの?

会社の強みを可視化して、経営方針を練りたい

経営状況が見えず、先の展望が描けない。
取引先からの信用悪化も懸念

課題1 手書き作業が多い経理業務

売掛台帳、請求書などの伝票類、封筒の宛名など全て手書き。経理担当者は1人。作業量が多く、慢性的な時間不足が続いていた。

課題2 売上代金の未収金を見落としことも

売掛帳は取引先企業の数だけページ数があり膨大。台帳を1枚1枚めくり、未収金がないか確認をするが見落とししてしまうことも。未収金の連絡が遅延してしまうと、ロスや信用問題につながる恐れがあった。

課題3 経営状況の詳細が見えにくい

多種多様なものを受注しているために、何がどのくらい受注されているのか、どの担当者が何をどれくらい売上げているのかが分かりにくい状況だった。

After

販売管理システム 販売大臣

ビジュアル・サービス株式会社のHPはこちらから



- 取引先企業との業務内容をコードで分類し、売上管理
- 伝票入力を極限まで簡略化
- 指定範囲の推移表、比較表の出力 etc

バックオフィス業務の時間が大幅に短縮

手書き作業がほとんどなくなった!
ペンだこもなくなった!



情報の把握に注力でき、資金の管理も明確に!

社員の“得意”に適した人員配置が可能に



この案件ならAさんのノウハウが活かせるぞ
利益率が高い案件に力を入れよう

経営状況の見える化で、経営方針や展望も描きやすく!

効果1 経理業務のデジタル化で業務効率が大幅にUP

手書き作業がほとんどなくなり業務効率が大幅に上がった。経理業務の作業時間が短縮。メイン+αの業務ができるようになった。

効果2 経営状況の詳細が明確化。売上代金の未収金の見落とし防止に

ボタン一つで指定したデータの参照が可能に。売上代金の未収金にいち早く気がつけ、取引先企業への未収金連絡が以前よりも早く伝えられるようになった。

効果3 適材適所の人材配置が可能に

担当者の得意分野が見えるようになり、仕事によって適切な人材の配置ができるように。

担当Tの編集後記

取材企業のあれやこれや話

上枝氏

ドローンを使用している空撮に限らず、デジタル分野は今後ますます世間に必要とされクリエイティブになると考えています。現在、受注している広告媒体はもちろんのこと、お客さまの要望へ応えられるようにデザインや設備の環境を整えていきたいです。

会社では、デジタル分野の企画、デザイン、制作も手がけていて、その一つに無人航空機「ドローン」を使用した空撮を行なっています。自社には、ドローン操縦の有資格者が在籍。機体は100m先にいる人の表情まで、バッチリと撮れる高画質カメラを搭載していて、臨場感溢れる映像が撮影できます。今までは違った「空からの視点」の映像はお客さまに大変好評で少しずつ受注が増えてきているそう。同社のホームページでは、ゴルフ場のコースをドローンで実際に撮影した動画を見ることが出来ますよ!これからの時代、デジタル分野の需要はもつと増えていきそうですね。